

生態

九州西岸から北海道まで、我が国周辺に広く分布する底魚です。

●分布・回遊

若齢期はあまり移動しないといわれていますが、成長に伴い、餌を求めての回遊や深淺移動がみられます。

●産卵期・産卵場

産卵期：3～6月。

産卵場：産卵海域は水深20～50mの砂質域。

●成長・成熟

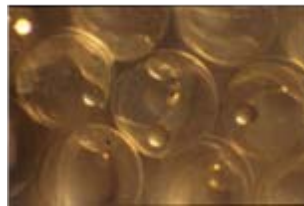
寿命は6歳以上です。概ね2歳で全長約45cmとなり、メスの約半数が成熟します。

ヒラメ

太平洋中部海域

主な漁業と漁期

成魚 刺網：周年
定置網：ほぼ周年



ヒラメの受精卵

ふ化から25～30日、全長1.5cmほどになると、右眼が左側に移動してくるとともに、浮遊生活から底生生活に移ります(右)。



放流サイズの稚魚

産まれた卵は直径約1mmの分離浮遊卵(左)で、受精後約2日でふ化します。

ふ化したばかりの仔魚は眼が両側にあります。



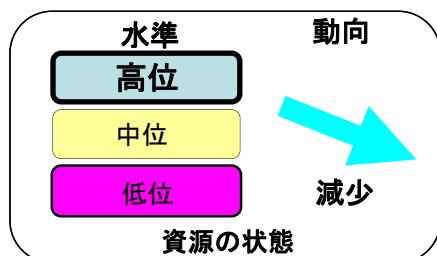
浮遊期の稚魚

種苗放流の取り組みでは、全長約6cmに育てられた稚魚が海域に放流されます。

放流後約1年で漁獲可能サイズ(全長30cm、体重250g)に達します。

漁業・資源動向

【資源】



2018年の資源評価では、静岡県を含む太平洋中部海域のヒラメの資源水準は高位、減少傾向にあります。

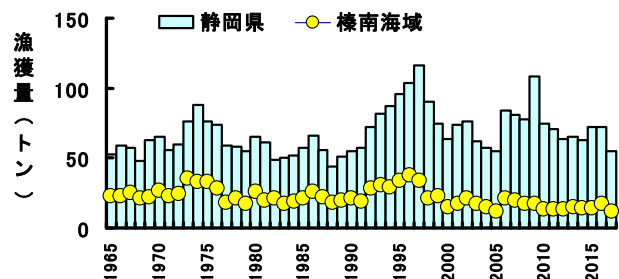
《国の資源動向調査報告へのリンクはこちら》

http://abchan.fra.go.jp/resource_trends_report/2018/201813.pdf

(太平洋中部海域のヒラメの報告は4～10ページです)

【漁業】

- 1 県内では、刺網を主体に定置網、小型底びき網、釣で漁獲されます。漁獲は周年にわたりますが、11月～翌年4月に多くなります。
- 2 県内の漁獲量は1966年以降、50～100トンで推移しており、1996～1997、2009年には100トンを超えるピークがありました。
- 3 主要産地は榛南海域(御前崎市～牧之原市沿岸)で、その漁獲量は1990年代まで県内漁獲量の30%以上を占めていましたが、近年は東駿河湾海域とともに20%台で推移しています。



静岡県のヒラメ漁獲量の推移

【種苗放流】

資源増大を目的に、漁協や栽培漁業推進協議会などにより、種苗生産施設で育てられた全長約6cmの稚魚が、毎年20～50万尾の規模で放流されています。

【資源管理】

小型魚を保護する目的で、漁業者は全長30cm以下(榛南海域では35cm以下)の個体は水揚げせずに再放流するという自主管理に取り組んでいます。

担当者の一言：背鰭や臀鰭を動かす筋肉は「ひらめの縁側」と呼ばれ、その食感と旨味のファンが多いようです。

問合せ先

静岡県水産・海洋技術研究所普及総括班 054-627-1816